



みどり



79号 『甲状腺と神経障害』

2014年10月1日発行／編集責任者 田中 眞／毎月1日発行／群馬県藤岡市篠塚105-1
<http://www.shinozuka-hp.or.jp/center/>

神経障害を生じる内科疾患について紹介していますが、今月と来月にわたり甲状腺疾患を取り上げます。

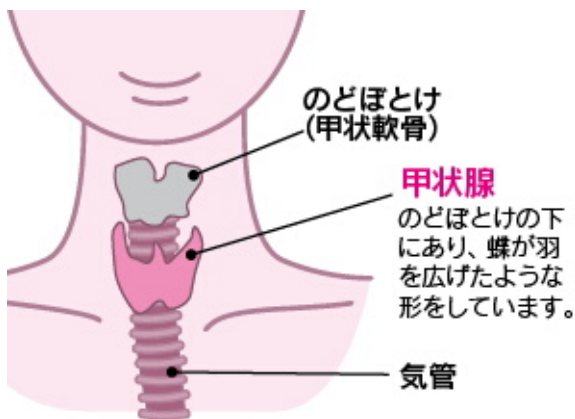
心臓や肝臓と違って、「甲状腺」といわれてもピンとこない方が多くいらっしゃると思います。今月は甲状腺に関する基本的知識と診察・診断のポイントについて紹介します。

甲状腺とは？

甲状腺とは、からだ全体の新陳代謝を促進するホルモンである“甲状腺ホルモン”を分泌する臓器です。

甲状腺は喉仏の両側に位置しており、蝶が翅を広げたような形をしています(図1)。左右に広く、大きさは縦4cm、厚さ1cmほど、重さは約15gの内分泌臓器です。正常の甲状腺は柔

図1. 甲状腺の位置



(石川県健康推進課 HP より)

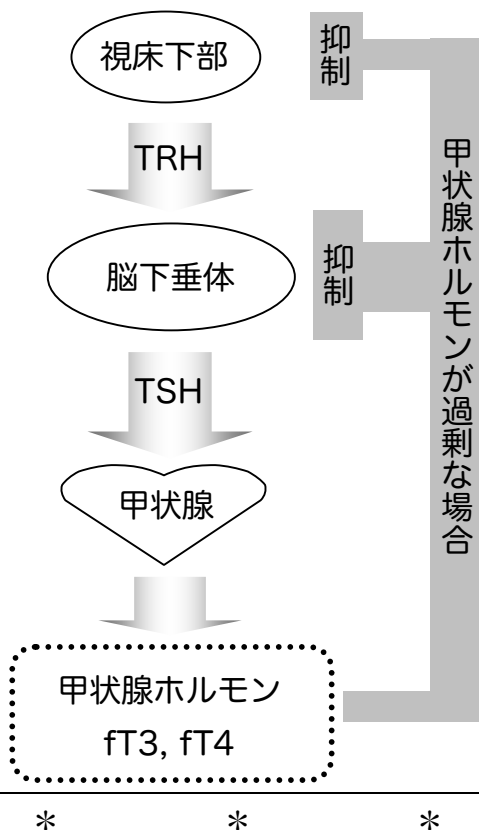
らかく、外から触ってもわかりません。

甲状腺では食物中のヨウ素(ヨード)を材料として、ヨードの元素を4つ持っているサイロキシン(T4)と、3つ持っているトリヨードサイロニン(T3)の二種類の甲状腺ホルモンが合成されます。血液中に分泌される甲状腺ホルモンは大部分が蛋白と結合した形で存在しますが、一部は蛋白と結合していない遊離した形で存在します。ホルモンとしての活性を持つのはこの遊離型で、フリーT3, T4 (free T3, free T4; fT3, fT4) と呼ばれます。

これらの甲状腺ホルモンの分泌を調整しているのが、脳下垂体から分泌される甲状腺刺激ホルモン(thyroid-stimulating hormone; TSH)です(図2)。このTSHの分泌を調整しているのは、脳の一部である視床下部から分泌される甲状腺刺激ホルモン放出ホルモン(TSH releasing hormone; TRH)です。

通常、体内で甲状腺ホルモンが増加するとTRHとTSHの分泌は抑制され、甲状腺ホルモンの分泌が減少します。逆に、甲状腺ホルモンが減少するとTRHとTSHの分泌が促進され、甲状腺ホルモンの分泌が増加します。このように、血液中の甲状腺ホルモンが常に一定の値に維持されるような調節機構が働いています(図2)。

図2. 甲状腺ホルモンの調節機構



甲状腺疾患を疑った時の基本となる血液検査項目は“TSH, フリーT4”です。これらの数値の増加, 減少のパターンから甲状腺の機能異常の有無を判定します。

甲状腺ホルモンの機能は？

甲状腺ホルモンは全身の新陳代謝を促す作用をもっており、発育や成長に欠かすことができません。身体活動の調整のみならず、精神・神経系の活動にも非常に重要です。そのため甲状腺ホルモンのバランスが崩れると、表1に示すよ

表1. 甲状腺の機能異常による主な症状

- ・安静時の脈拍増加
- ・発汗過多
- ・易刺激性, 神経過敏
- ・手指の細かい震え
- ・月経異常
- ・食事量は変わらないのに体重が減る, 増える
- ・易疲労性, 無気力
- ・動作緩慢
- ・耐寒性の低下
- ・顔面・四肢の浮腫
- ・記憶力の低下

注) これらは甲状腺疾患に特異的な症状ではありません。

うな症状が現れることがあります。

甲状腺疾患の診断は？

甲状腺疾患の診断は、問診と視診・触診から始まります。

問診では、表1に示したような自覚症状の有無や、既往歴や家族歴などをうかがいます。

視診・触診では甲状腺の腫脹, 硬さや腫瘤の有無などを診察します。

甲状腺の大きさに関しては、頸部違和感や鏡などを見て自分で甲状腺の腫脹に気付かれる方もいますが、周りの方に指摘されたことが受診のきっかけになる方もいらっしゃいます。ところが高齢者の場合、自覚症状や臨床症状に乏しく、視診・触診でも異常が明らかでないことも多いため注意が必要です。

触診所見から考えられる、代表的な甲状腺疾患を表2に示します。

表2. 触診所見から考えられる甲状腺疾患

- 1) 甲状腺が全体的に腫れる
 - ①バセドウ病
 - ②橋本病
 - ③単純性甲状腺腫
- 2) 甲状腺の一部が腫れる

亜急性甲状腺炎
- 3) 甲状腺に腫瘍ができる
 - ①良性腫瘍性疾患：腺腫様甲状腺腫, など.
 - ②悪性腫瘍性疾患

これらの診察所見に加え前述の TSH, フリーT4 を含む血液検査や甲状腺の画像検査(超音波検査など) から得られた結果をもとに、総合的に診断されます。

* * *

来月号では、上記の甲状腺疾患のうち神経障害を来すことがある疾患について説明します。

(文責：金子 由夏)